

## 平成23年度 第1回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成23年4月14日（木）午後2時30分～午後5時

2. 場 所／平田総合支所 302号室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）

奥山仁委員、阿曾智子委員、伊藤市太委員、阿曾重雄委員、  
菅原律子委員、堀弥志男委員、長谷部耕次委員、加藤勝子委員、  
庄司美智子委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計9名

（2）2号委員（識見を有する者）

阿部敬子委員、石黒均委員、阿部彦悦委員・・・・・・・・計3名

（3）3号委員（公募）

石黒由香委員、富樫文雄委員・・・・・・・・・・・・・・・・計2名

（4）酒田市

阿部寿一酒田市長

平田総合支所 斎藤啓一支所長、石川忠春地域振興課長、

中條幸弥市民福祉課長、佐藤政好建設産業課長、

地域振興課 土田瑞穂課長補佐、小松原毅地域振興主査兼係長・・・計7名

出席者合計21名

4. 次 第／（1）開会

（2）酒田市長あいさつ

（3）委員・職員自己紹介

（4）地域協議会の趣旨と仕組みについて

（5）会長・副会長の互選

（6）会長・副会長あいさつ

(7) 会議録署名委員の選任

(8) 報告

- ①平成22年度 平田地域協議会における協議状況と地域課題について
- ②平成23年度 平田地域関連予算について
- ③平成23年度 中山間地域資源情報発信事業について
- ④コミュニティ振興会の活動状況について

(9) 協議

- ①平成23年度 平田地域協議会の活動予定について

(10) その他

(11) 閉会

## 5. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 酒田市長あいさつ

▶阿部市長

第1回目の平田地域協議会、お忙しい中ご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。

地域協議会委員の皆様にはこれから2年間、このふるさと平田の発展振興のためにいろいろなアイデアを出していただき、また、地域に戻っては汗をかいていただくというお仕事をお願いしたい。早いもので合併から5年が過ぎ、6年目に入っている。合併したことで合併特例債の活用が可能となり、過疎法が延長され過疎債も活用できる。この有利な財源を、残りの5年ないし6年でどう活用していくか、大変大事な局面となっている。少子高齢化も急速に進展しており、将来を見越した投資ができる、大事なポイントに来ていると思っている。

合併から5年間は、旧平田町から引き継いだ課題を解決していこうということで様々な事業に取り組み、これもいろんな形でほぼ実現をみた状況だと思っている。今後の残り5年間でどういうことをやっていくか、一度立ち止まってとか、また原点に立ち返って議論したいということで、旧3町地域については地域ビジョンというものを作ろうとしてい

る。皆さんからは、この地域、ふるさと平田の発展振興をどう考えていくべきか、どんな事業が必要かなどについて、活発なご議論をいただきたい。

ただ、施設整備というかハード整備は旧平田町時代からある程度進めてきており、いろいろな課題や懸案については、地域バランスについても少し検討が必要となる場合があるかもしれない。合併特例債、過疎債が有利な財源であるとはいっても、借金であることには間違いのないわけで、バランスを取りながら使っていかなければならないと思っている。

ハード整備はまあ一定の水準にきているとはいっても、地域の良さを生かしていく、伸ばしていくための事業というのは、まだまだこれからいろいろなアイデアが出てくると思っている。たとえば平田の赤葱として全国に販売していることとか、里山へ人を呼ぼうという動きがあるなど、一生懸命に地域の財産を掘り起こそう、生かしていこうという取り組みが行われており、こうしたことについてはぜひ伸ばしていく方向で、皆さんからもご意見をいただきたい。

それからもう一つ、旧3町地域を比べても、山元、田沢、北俣、中野俣といった谷の方では店舗も無くなってきており、過疎化や高齢化が進み、お年寄りだけの世帯も増えている。これは松山も八幡も同じと思われるかもしれないが、その地域の谷筋と比べても、著しくそういう状況が進んでいると思っている。

今後この地域において、たとえば買い物難民ということが出てくるかもしれないし、それにどう対応していくのか。見守りの仕組みについても、自治会長や民生委員で対応するには広大な面積となる。集落と集落との距離が長いというのが農村部、特に中山間部の特色であり、こうした状況の中どういった仕組みで見守り活動を行っていくのかなども課題となってくるのではないか。さらには他の地域との関わりでいうと、松山の方との中学校の統合の話も徐々に出てきているわけであり、そういう意味ではいろんな形での議論を皆さんからしていただかなければならない2年間になろうかと思っている。

このふるさと平田は、良い物がいっぱいあるということと同時に、地の利として中心的な場所に位置するということから、消防本部や商工会、森林組合といった事務所を抱えるという一つの拠点にもなりつつある。そんな平田の良さを生かしながら、次世代に自信を持って継承できるようなふるさと平田づくりのために、委員の皆様から一肌も二肌も脱いでいただきたいと思っている。

これから2年間、いろいろお世話になりますが、皆さんからは本当に

夢のある仕事をしているとあっていただき、ぜひ和やかで活発なご議論をしていただきたい。斎藤支所長以下、支所の職員も皆さんの活動を懸命に支えていくので、どうかよろしくお祈り申し上げます。

委員の皆様が、ご健勝にてお暮らしをいただきますようお祈りを申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

### (3) 委員・職員自己紹介

#### ▶委員・職員全員による自己紹介

### (4) 地域協議会の組織と仕組みについて

#### ▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

### (5) 会長・副会長の互選

#### ▶石川地域振興課長

会長の互選については自薦他薦とし、複数の方が出た場合にはその中から選ぶということで、確認をさせていただきたい。

#### ▶奥山委員

引き続き、富樫委員から会長を務めていただきたい。

#### ▶富樫委員

奥山委員からご推薦をいただいたが、私自身、会長として今後2年間、皆様と共に地域課題に対して積極的に向かっていきたいと、決意を新たにしているところであります。ご同意くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### ▶石川地域振興課長

富樫文雄委員より、会長に立候補するという意思表示があったが、他の立候補、推薦はなかったため、富樫委員を会長として互選することに対する、委員の皆様の同意を確認したい。富樫委員を会長とすることにご異議ございませんでしょうか。

異議なし多数ということが確認できるので、富樫委員を会長とすることに決定いたします。

副会長の選出については、会長と同様自薦他薦に加え、会長による指名という選出方法があると思うが、ご意見をいただきたい。

いずれの方法でもかまわないということであれば、事務局からは、副会長の選出は会長から指名いただくことを提案したい。

ご異議がないようなので、副会長の選出は富樫会長からご指名いただ

きたい。

▶富樫会長

副会長については、菅原律子委員をご提案申し上げます。

▶石川地域振興課長

選出方法について皆様にお諮りしたうえで、会長が副会長として菅原律子委員を指名されたということであり、菅原委員を副会長とすることに決定いたします。

(6) 会長・副会長あいさつ

▶富樫会長

改めて身の引き締まる思いであります。

昨日は阿部市長に対し、3地域の地域協議会の会長、副会長が、それぞれの地域協議会における1年間の協議状況や地域課題についての報告を行った。先ほど市長があいさつの中で触れていたように、当平田地域においても課題が山積している。

自治会によっては高齢化率が50パーセントを超えるなど、中山間という非常に厳しい条件の中で暮らしておられる方々もいる。差し迫った地域課題については、地域協議会の中で議論を戦わせながら、また様々な意見も聞きながら、住民の方々から良かったと認めていただけるよう、スピード感を持って取り組んでいきたい。

これから2年間、平田地域に住む人たちの現実の生活の向上に、いかに私たちが寄与できるかというこの一点に向け、委員の皆様が一丸となり一緒にがんばっていきたい。

よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

▶菅原副会長

平田地域協議会の副会長を仰せつかり、本当にこの責任の重さを感じている。合併して6年目に入り、良かったこともあるが、課題もまた山積している。楽しく明るく住みよいまちづくり、地域づくりのために、この地域協議会という場で議論を尽くしていきたい。私も精一杯がんばるので、よろしく願い申し上げます。

(7) 会議録署名委員の選任

▶富樫会長

会議録署名委員として、奥山仁委員を選任いたします。

(8) 報告

①平成22年度 平田地域協議会における協議状況と地域課題について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶富樫会長

昨日阿部市長に対し、地域課題について報告を行った際、中山間部における災害への備えとして、旧山元分館の防災センター的な活用について提案した。また、羽州湯里線の整備についてもご提案申し上げた。

②平成23年度 平田地域関連予算について

▶石川地域振興課長・中條市民福祉課長・佐藤建設産業課長  
（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

市道飛鳥堀野内線の改良について、これは農協平田中央支店東側の、農機具整備をしている所の市道を直すということか。

▶佐藤建設産業課長

おっしゃるとおりである。農協平田中央支店の所の旧県道から北に向かう80メートル区間については、機械倉庫と重なって狭くなっている。飛鳥堀之内線と飛鳥バイパスとが交差する部分の幅員は8メートルくらいあるのだが、何とか同じ幅まで広げたいと考えている。整備する区間については、用地提供へのご協力であるとか倉庫への補償といったことが必要となってくる。今後は、そのあたりを詰めていく予定である。

▶長谷部委員

私ども地元からすると、あの部分は合併前から問題になっていた場所で、変形変則的な形状にはなっているものの、今の交通量とか災害対応といった部分でのさしたる支障というのは、あの80メートル区間においてはあまり感じとれない。地元としては、むしろガソリンスタンドから集落までが、交通安全や災害対応といった面で重要だと捉えている。そちらについては、どういった基本計画を持っているか。

▶佐藤建設産業課長

今計画に上がっている部分は、前の過疎計画にも載っている区間であり、幅員を広げられなかった事情としては、当時は農協の車検場があり、用地買収にご協力いただけない状況にあったということである。現在は車検場として使用されていないこともあり、何とかご協力をいただきながら、まずあの部分を広げ、一定の交通量の確保や混雑の緩和をしたいと考えている。それより先については、交通量なども見ながら計画に入れるか判断することとなり、今後の検討課題だと思っている。

▶長谷部委員

交通量とか災害といった観点から見た場合や、生活環境からしても、

あの80メートル区間より旧県道から南側の方こそ重要である。あの80メートルについてやっていただくのはかまわないが、日常生活を送るうえで問題視していかなければならないのは、旧県道より南側である。

▶佐藤建設産業課長

路線の起点側となる部分について、幅員を広げたいということは当然理解できる。整備について検討していく段階では、用地取得についても課題となる。考え方としては、まず交差する部分まで幅員を広げ、その先については交通量も見ながら検討してくというのが一般的である。旧県道から南側については、飛鳥バイパスと旧県道間の交通量なども見ながら検討していきたい。

▶長谷部委員

あそこには歩道も設けてあり、ということは交通量が相当あるということを中心に公安委員会で歩道の設置許可をしているわけであるから、交通量調査というのは遅れた考え方である。すでに横断歩道まで設置されている場所である。用地の問題というのは、基本計画に上げて交渉に入らなければ一歩も進まないわけで、以後ここから先をやるということで頭の中に入れておいていただきたい

▶齋藤支所長

旧県道よりもさらに南側の飛鳥の旧道までの区間については、今までも特に計画としては上がっておらず、新たな要望、意見と捉えさせていきたい。

③平成23年度 中山間地域資源情報発信事業について

▶石川地域振興課（資料に沿って説明）

④コミュニティ振興会の活動状況について

▶奥山委員（田沢コミュニティ振興会）

▶阿曾智子委員（東陽コミュニティ振興会）

▶伊藤委員（郡鏡・山谷コミュニティ振興会）

▶阿曾重雄委員（南平田コミュニティ振興会）

▶菅原副会長（砂越・砂越緑町コミュニティ振興会）

（各コミュニティ振興会からの委員が資料に沿って説明）

▶長谷部委員

前年度に酒田市過疎地域自立促進計画を策定し、地域と行政とが一体となって過疎対策に取り組んでいくという方向になっているが、コミュニティ振興会の事業に過疎計画と関連しているものはあるか。

▶齋藤支所長

酒田市過疎地域自立促進計画の策定に向けては、昨年6月ごろに各コ

コミュニティ振興会を訪問していろいろとご意見を伺い、それを昨年12月に策定した過疎計画にできるだけ反映させていただいた。平成22年度はスケジュール的に、過疎計画を策定するという面に相当の力を入れざるを得ない年であった。平成23年度は、いよいよこの過疎計画の実践ということで、今後各コミ振からも様々な活動に取り組んでいただきたいと思っている。

また、今年の夏くらいまでに地域ビジョンを策定する予定となっている。特に中山間部を中心に、いろいろな不便や困った状態にあることについて、過疎計画におけるソフト事業として有利な財源を活用しながら事業を行っていきたい。そういった面で、今後は実践していただく、あるいは私たちにご意見をいただくという流れになっていくので、よろしく願いいたします。

## (9) 協議

### ①平成23年度 平田地域協議会の活動予定について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶齋藤支所長

昨年来、富樫会長のご発案により、平田地域協議会としても実際に中山間部の方々と交流、意見交換をしようということで、去年の秋くらいから山元地区に行こうと段取りを組んだ。ところが最初に計画した9月の大雨に続き、1月は大雪で、3月には震災の影響でいずれも中止となり、なかなか縁がなかった。今、地域協議会の活動予定として5回の開催を予定していると説明したが、うち一度は実際に中山間部に出向き、直接話を聞いたりする研修会を実施したく、委員の皆様からご理解をいただきたい。

▶富樫会長

目で確かめ足で歩き、現場の状況を感じながら課題解決の方向を見出すということも必要だと思っている。研修会について、よろしく願いいたします。

## (10) その他

▶阿曾重雄委員

国道345号から先の飛鳥バイパスの整備状況について、現在の状況を教えていただきたい。また飛鳥バイパスを通ってみたが、半感应式信号なので赤にはならないというのだが、何回も止められる。

▶佐藤建設産業課長

飛鳥バイパスの供用開始は3月26日だが、開通式については震災により中止せざるを得ない状況であった。工事については、交差点部分を現在行っており、歩道などの工事はこれからとなる。樞橋側の工事については、平成23年度に継続して行われる。供用開始については、現時点ではいつ頃になるか申し上げられる段階にはないと聞いている。

▶石川地域振興課長

飛鳥バイパスの2カ所の信号については、開通する前の交通安全施設の説明の際に、飛鳥バイパス側は常時青であり、市道側は半感応ということの説明を、交通安全協会平田支部の支部長でもある長谷部委員と一緒に酒田警察署に行って確認し、そのまま報告していた。現時点では、阿曾重雄委員がおっしゃるとおり一定の時間でお互い替わっているようであり、なぜそのような状況であるかは報告できないが、交通安全上のことで一定の期間そういった設定をしていると解釈している。

(11) 閉会

▶菅原副会長

長時間に渡り、また資料も多かった本日の地域協議会ではあるが、委員全員出席のもとで協議を行うことができ、ありがとうございました。本日は本当にご苦労様でした。